

Library & Tape Tools (LTT) のご使用方法について

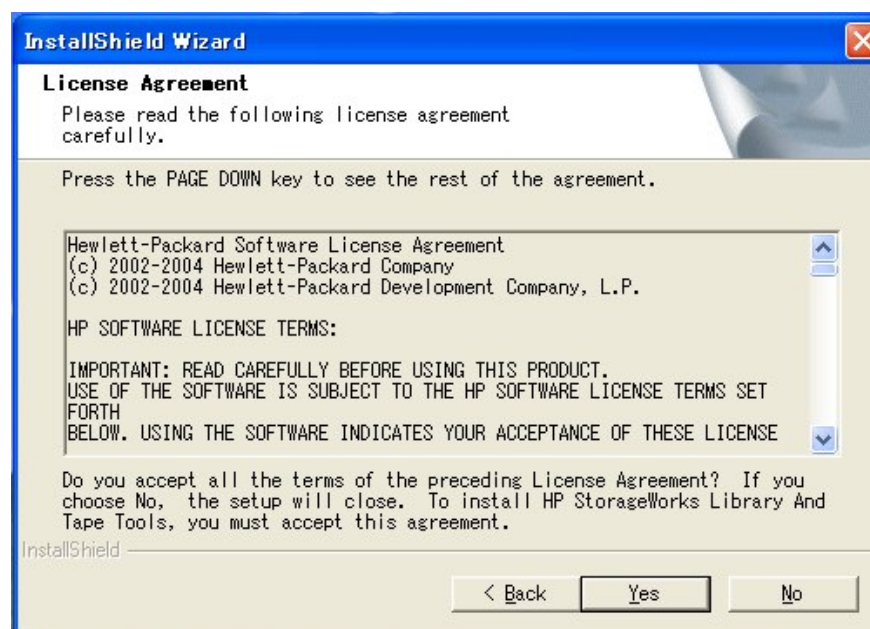
概要

Library and Tape Tools (L&TT) は、HP 製テープ製品用の診断ツールです。L&TT には、デバイス動作の検証、障害解析、および広範なユーティリティが備わっています。また、サポート・チケットと呼ばれるテープ装置の内部ログを採取することを可能とし、テープドライブの問題の迅速な解決を実現します。

ご使用に当たっての注意事項

Library and Tape Tools (L&TT) は、HP社テープ装置をサポートするために、HP社サイトにて公開され、無償でDownloadにより入手可能なツールです。

インストールの際に表示されるLicense Agreementを熟読した上でご使用願います。



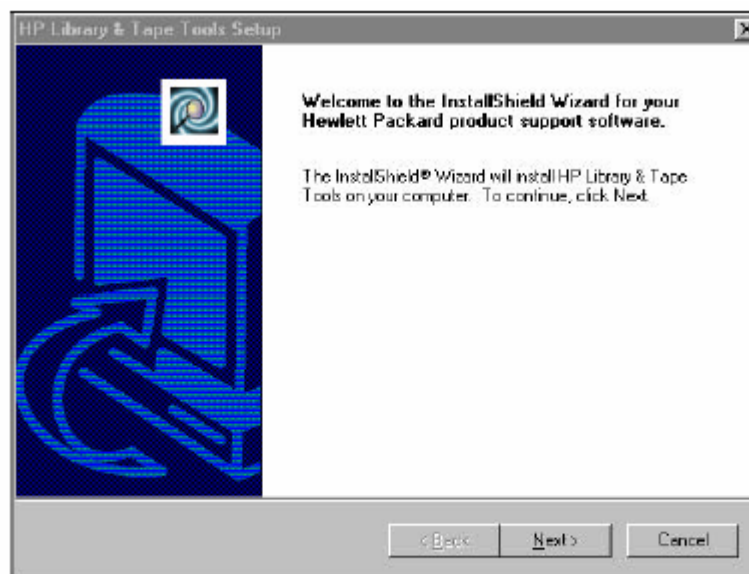
LTT の入手方法について

LTT は、HP 社の以下の Web サイトから、マニュアルも含め、ご使用されるサーバの OS バージョンに適応した最新 Version が無償でダウンロードできます。

<http://www.hp.com/support/tapetools>

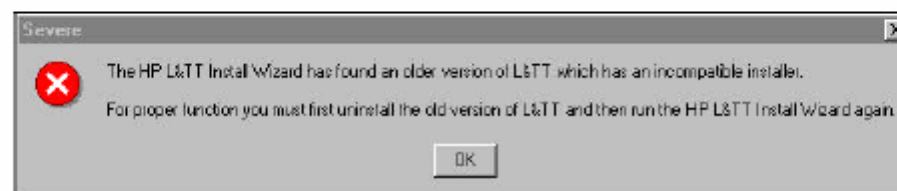
LTT のインストールについて

自動解凍型の .EXE 形式のファイルをサーバの任意の場所に保存し、ダブルクリックしてインストールを開始します。



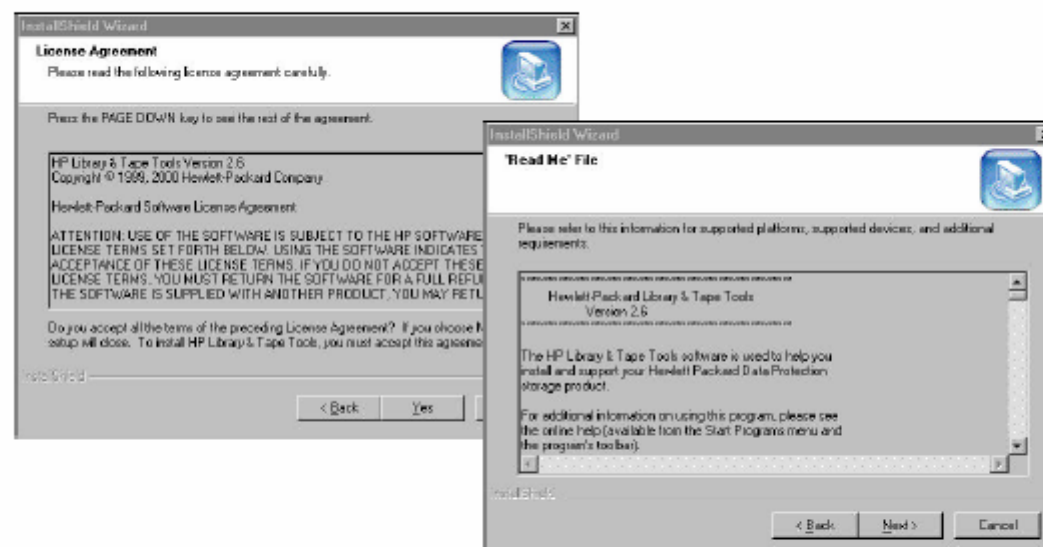
インストールシールドが起動しますので、そのまま「NEXT」ボタンをクリックします。

診断ツールのインストール -エラーメッセージ



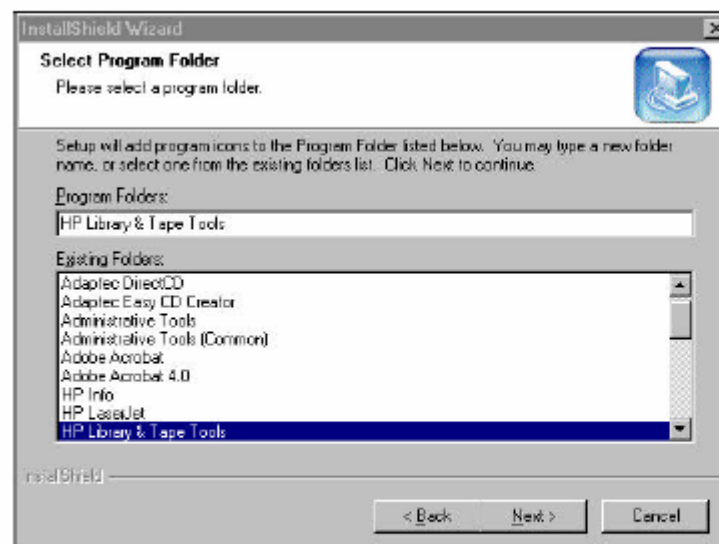
インストールプログラムでは、インストール先のドライブにLibrary&Tape ツール(以降LTT)の旧バージョンがインストールされていないかどうか、チェックを行います。LTTの新バージョンをインストールする際事前に旧バージョンをアンインストールしておく必要があります。何らかの理由により、旧バージョンのアンインストールに失敗している場合、または旧バージョンのアンインストールを行っていない場合、上記のメッセージが表示され、新バージョンもインストールすることが出来ません。

診断ツールのインストール – ライセンスとユーザ情報



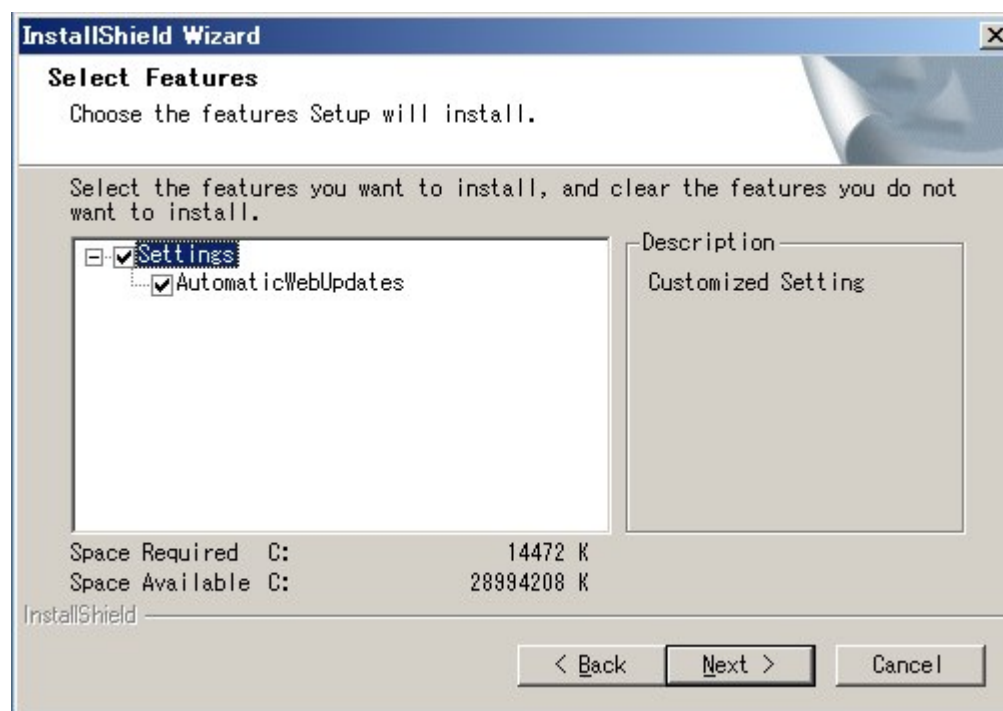
インストールプロセスは使用許諾に同意するようメッセージを表示します。使用許諾に同意すると、次の画面では「read me」ファイルという製品概要を説明するファイルの内容が表示されます。

診断ツールのインストール –インストール先フォルダ



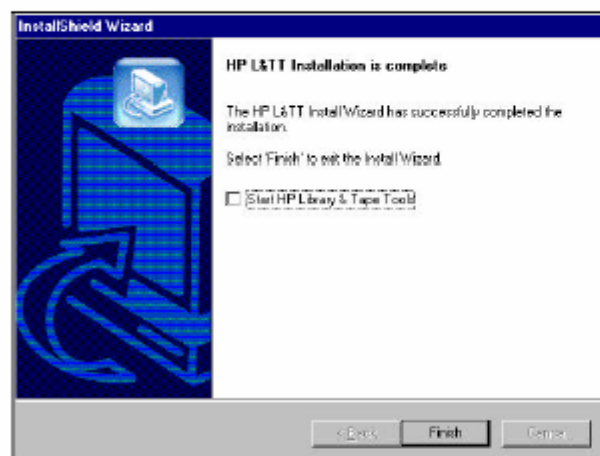
デフォルトのインストール先フォルダは、
"C:\Program Files\HP Library & Tape Tools"です。

診断ツールのインストール-Features の選択

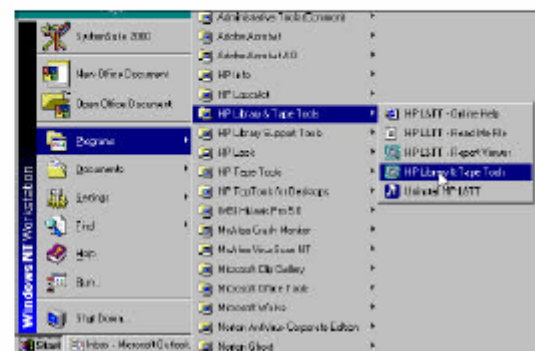


上記のようなデフォルトの選択で、次へ進んで下さい。

診断ツールインストーラー完了



Start menu

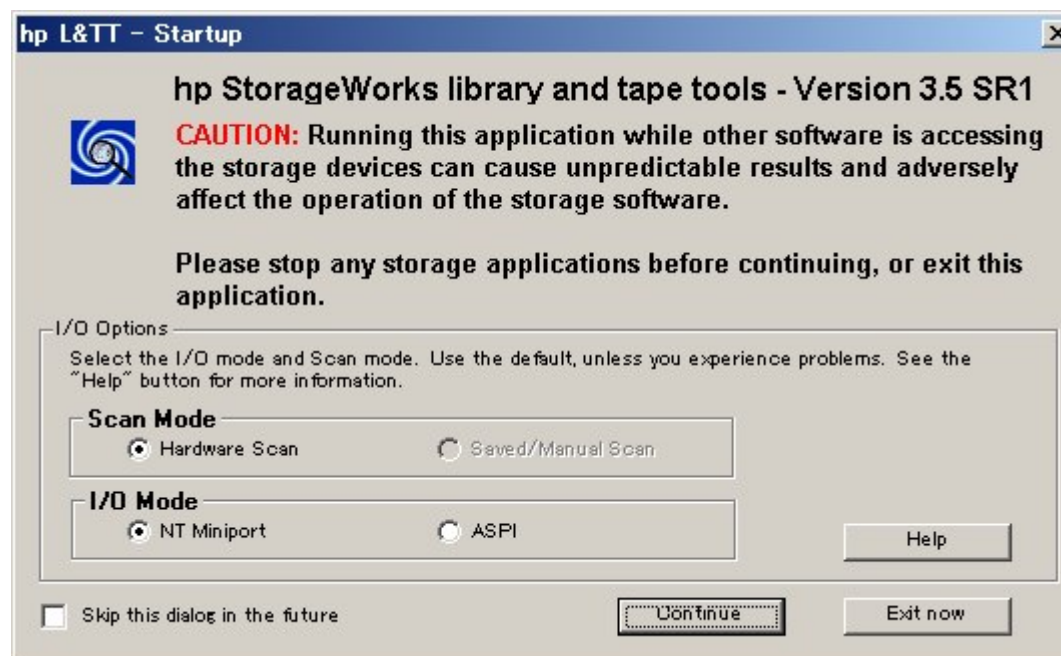


Desktop shortcut



インストールプロセスが完了すると、LTTはスタートメニュー内のプログラム—HP Library & Tape ツール—to追加されます。またデスクトップ上にショートカットも作成されます。

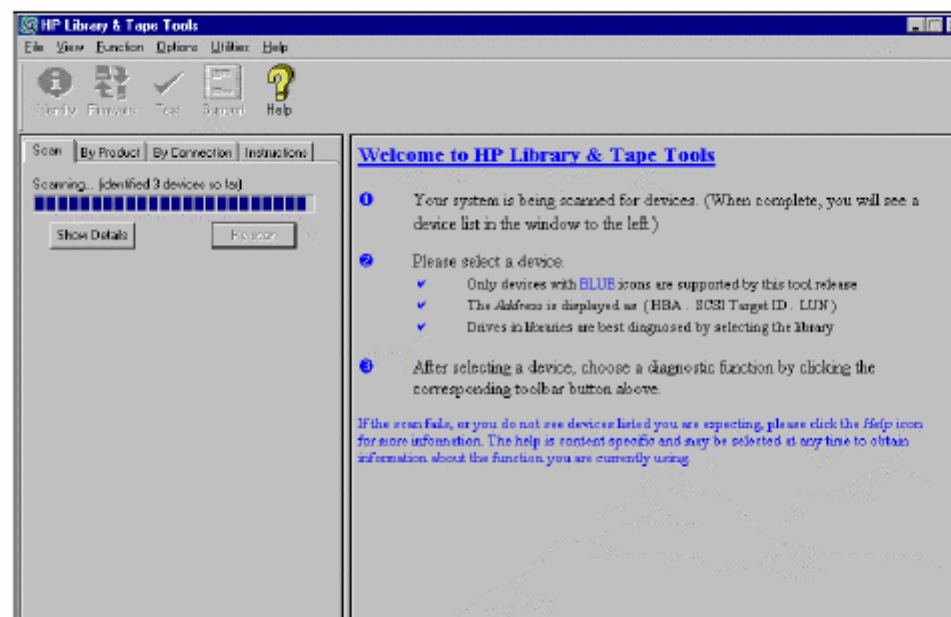
LTT の起動



LTT を最初に起動すると、LTT 使用中は他のバックアップアプリケーションがデバイスにアクセスできない旨の警告メッセージが表示されます。
また、ASPI コンポーネントをインストールした環境では、I/O Mode に関する選択肢が表示されますが、上記のデフォルトの設定のまま、起動して下さい。

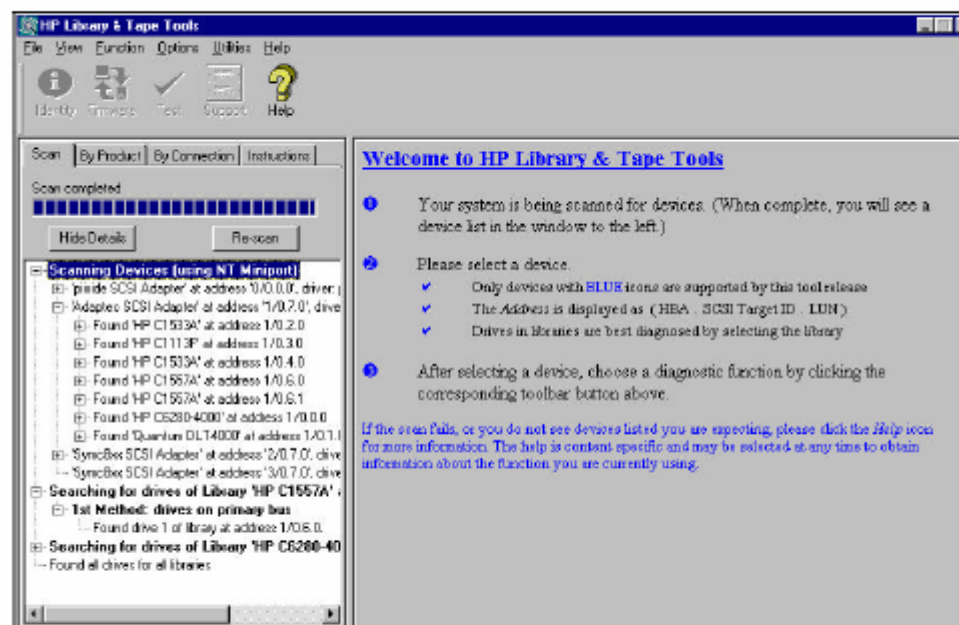
[注記] テープ装置へのバックアップ中は、バックアップをアボートする可能性があり、起動しないようにお願いします。

I/O scan と初期化画面



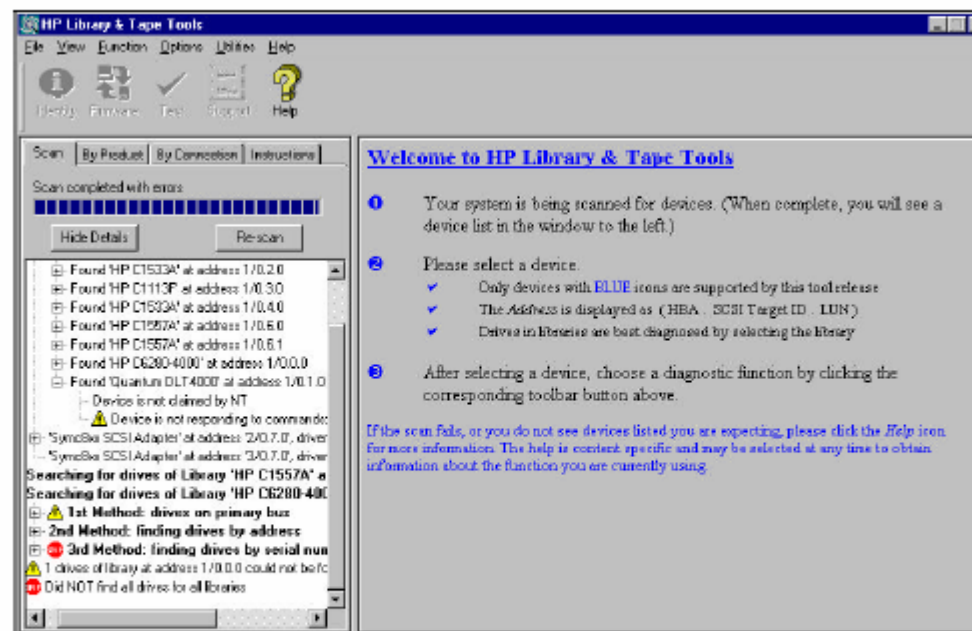
LITを起動すると "Welcome"画面が表示されます。その間にシステムは接続されているデバイスがLITでサポート対象となるデバイスかどうかを確認するため、デバイススキャンを行います。

I/O scanの詳細



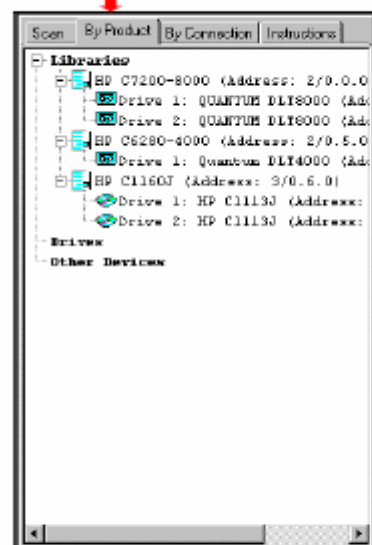
デフォルトでは、I/Oスキャン中に、接続されているデバイスの数だけが表示されます。
 "Show Details" ボタンをクリックすると、更に詳細な情報が表示されます。
 この情報には、接続されているホストアダプタ、使用しているドライバ、接続されているデバイスなどが含まれます。I/Oスキャン中に何らかの問題があった場合、自動的に詳細情報を表示します

I/O scanトラブルシューティング

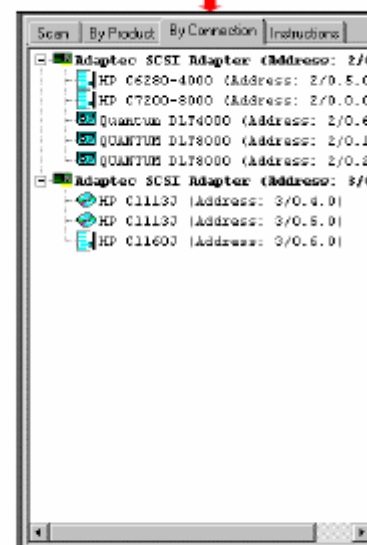


I/O scanの詳細画面では、“+”と“-”ボタンで表示をコントロールします。
 これは、接続されているデバイスが表示されない場合(BUS IDが競合している場合や正しくないドライバを使用している場合など)のトラブルシューティングとして役立ちます。
 また、このスキャンの結果は、サポートチケットに含まれるイベントログにも記録されます。

デバイスリストの表示

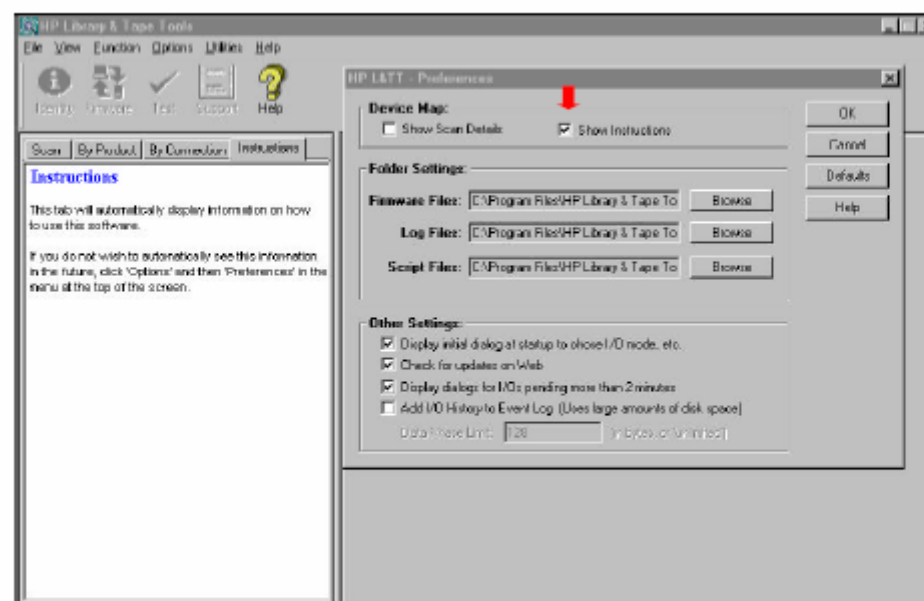


デバイスリストを表示する方法として、「By Product」「By Connection」タブのいずれかを選択します。



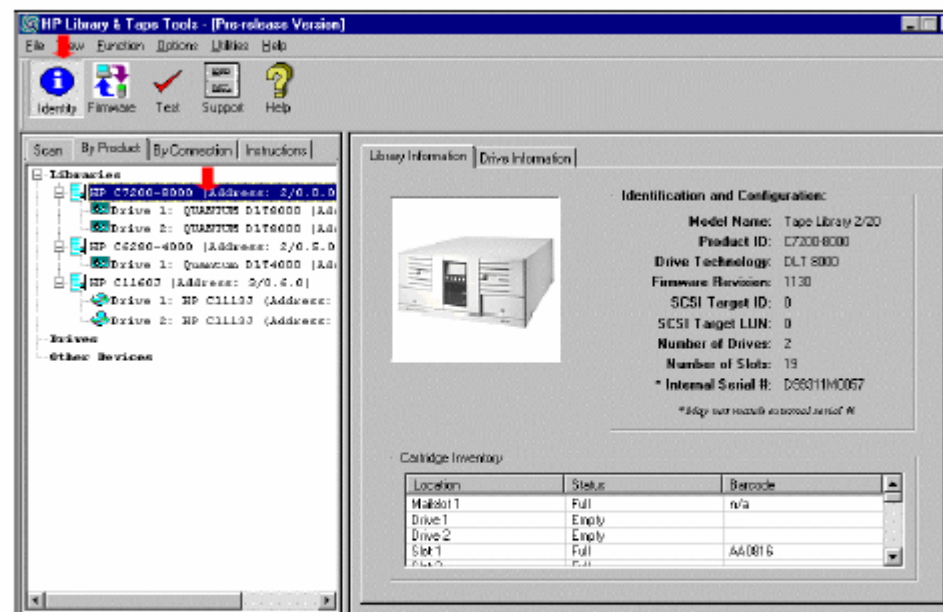
By Product (デフォルト) : デバイスタイプ毎にグルーピングされリストに表示します。
By Connection : I/Oアダプタの接続ごとにデバイスをグルーピングし表示します。

Instructionタブ



Instructionタブの内容はLTTにおいて、その都度選択するタブやツールにより、自動的に表示内容が変わります。たとえば、Testボタンを選択し、テストを実行した場合は、Instructionタブにはテストに関する説明が表示されます。

Identity ツール

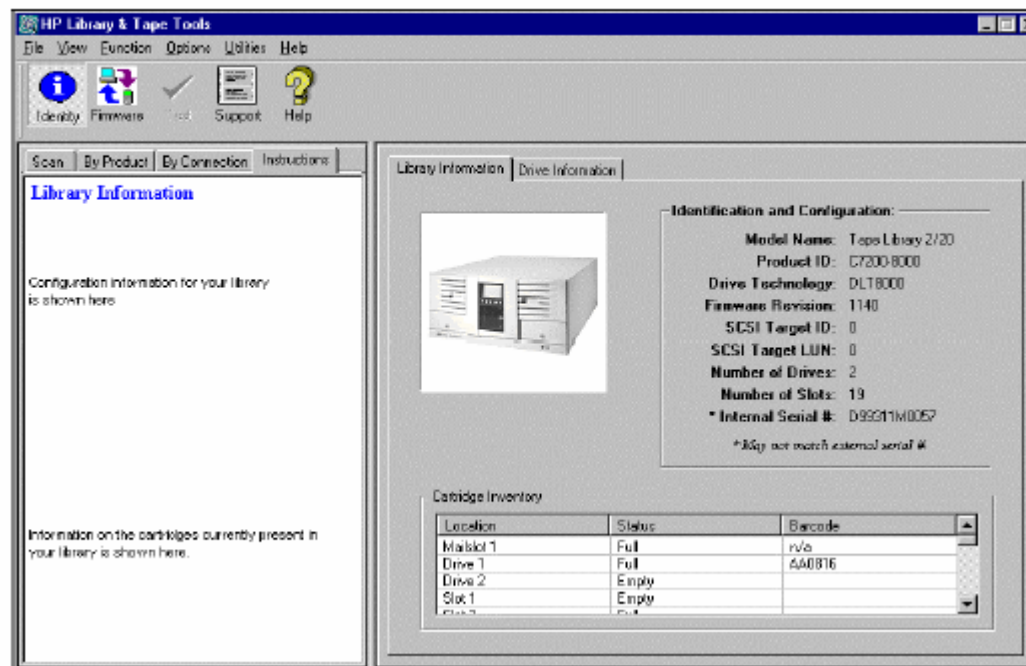


Identity ツールを選択すると

- ・製品名
- ・ファームウェアバージョン
- ・SCSI ID
- ・シリアル番号

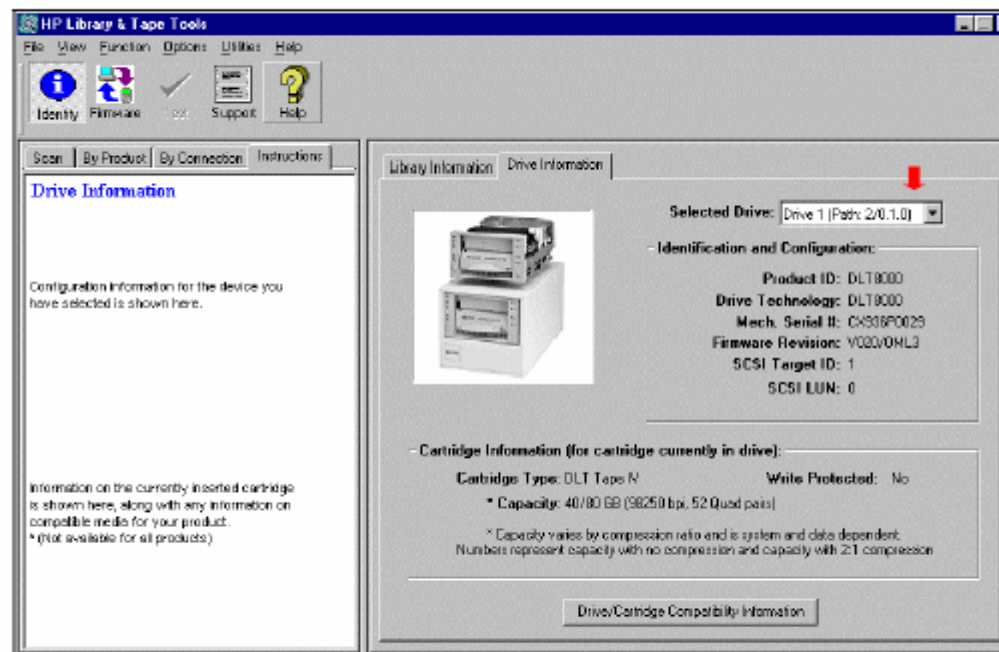
などが表示されます。また、メディアの互換性に関する情報を参照することも出来ます。

Identity ツール - libraries



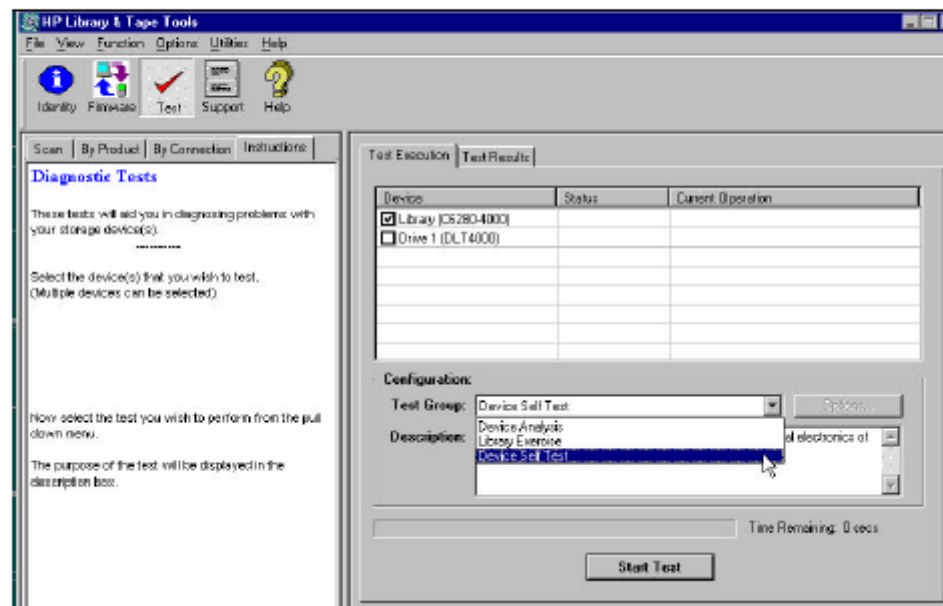
ライブラリ装置を使用している場合、MailSlot 数、ドライブ数、Slot 数についても情報が表示されます。

Identity ツール – libraries



ライブラリに実装されているすべてのドライブに関する情報を確認する場合は、“Drive Information” tab を選択します。プルダウンボタンから確認したいドライブを選択します。

Test ツール - libraries

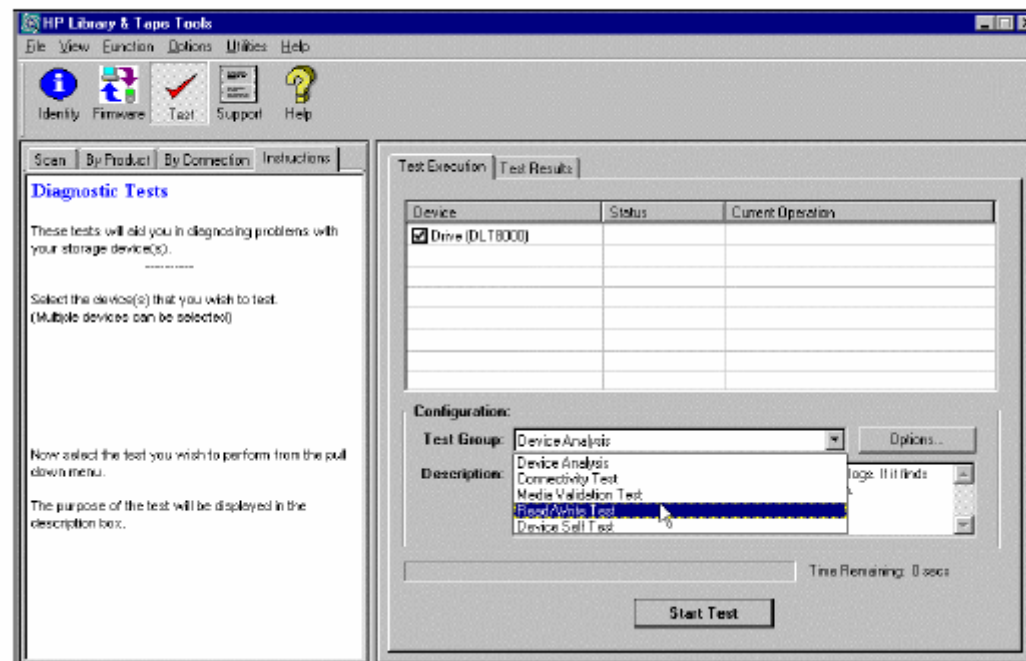


ライブラリ装置では、以下のテストを行うことができます。

(1) Device Self Test (2) Device Analysis (3) Library Exercise test

The Library Exercise testはライブラリと1つ以上のドライブを選択し、ライブラリとドライブをセットにして両デバイスが問題がないかどうか、セルフテストを行います。

Test ツール - drives



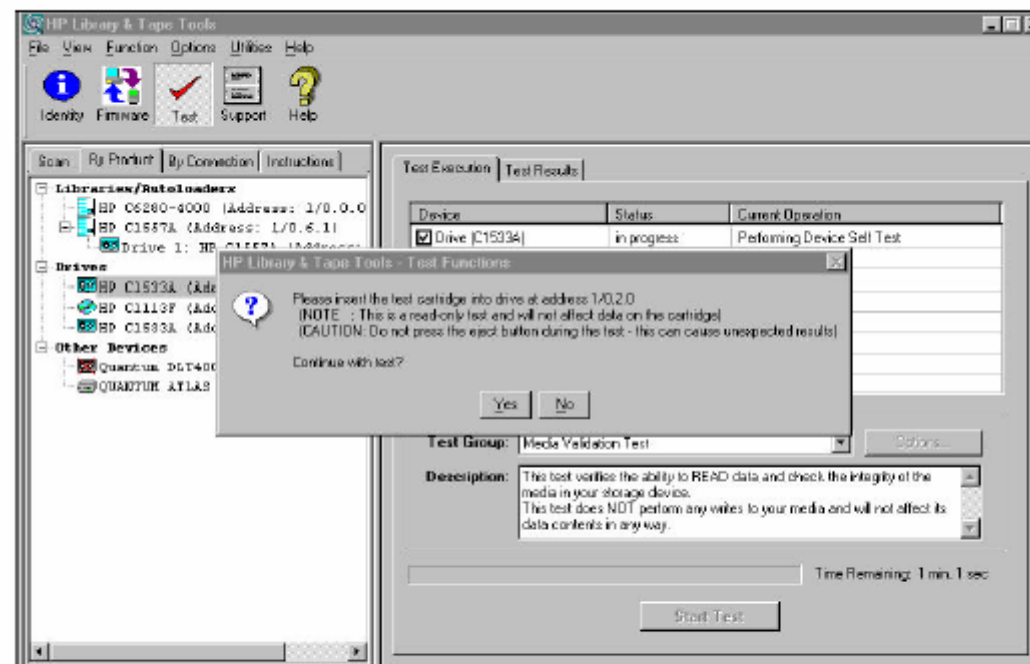
ドライブのテストでは、以下のテストを行うことができます。

- Connectivity
- Media Validation (read-only)
- Read/Write
- Device Self Test
- Device Analysis

Test ツール – driveテストの内容について

- **Device Self Test**
デバイスのパワーオン セルフ テスト(POST)を行います。
- **Device Analysis**
デバイスのハードウェア構成に問題がないかどうかをチェックします。このテストでは構成データとログデータをデバイスから読み取るだけで、カートリッジは必要としません。
- **Connectivity Test**
デバイスの接続状態をテストします。データをデバイスへ送りますが、カートリッジに書き込んだりカートリッジを読み込んだりしません。このテストはカートリッジをデバイスに挿入しなくても実行することができます。仮にカートリッジを挿入したとしてもデータを上書きしたりすることはありません。このテストはあくまでも接続性を確認するテストです。
- **Read/Write Test**
- このテストはデバイスに対し 基本的な書き込みと読み込みのテストを実行します。あるデータパターンがデバイス内のカートリッジに書き込まれ、その書き込まれたデータを読み込みベリファイを行います。
- <このテスト中にエラーが起きた場合>
別のカートリッジを挿入したり、他に同機種のデバイスがあれば、そちらを接続して再度このテストを実行し、問題がデバイスにあるのかカートリッジにあるのか切り分けを試みてください。このテストはカートリッジがデバイス内にあるときのみ実行可能です。またこのとき使用するカートリッジは上書きされるため、カートリッジ内のデータは失われる点に注意してください。
- **Media Validation Test**
約30MBのデータを読み込み、テスト中のデバイスにある特定のデータが読み込めるかをテストします。このテストはカートリッジがデバイス内に挿入されているときのみ実行可能ですが、上書きはされません。

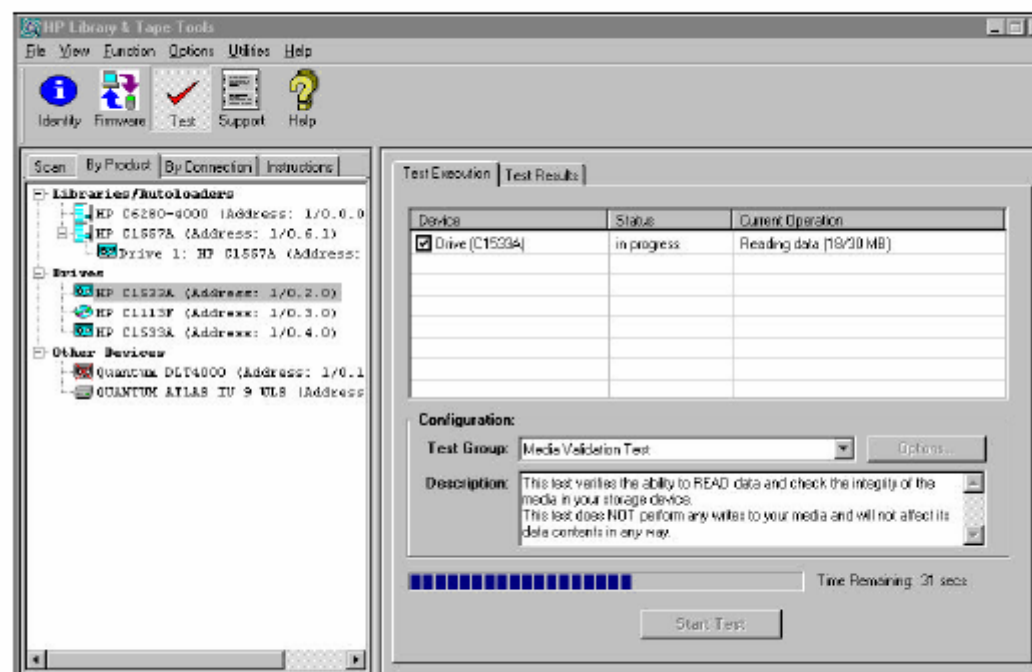
Test ツール - drives



read/writeと media validation testはテスト実行前にカートリッジを挿入しておく必要
があります。

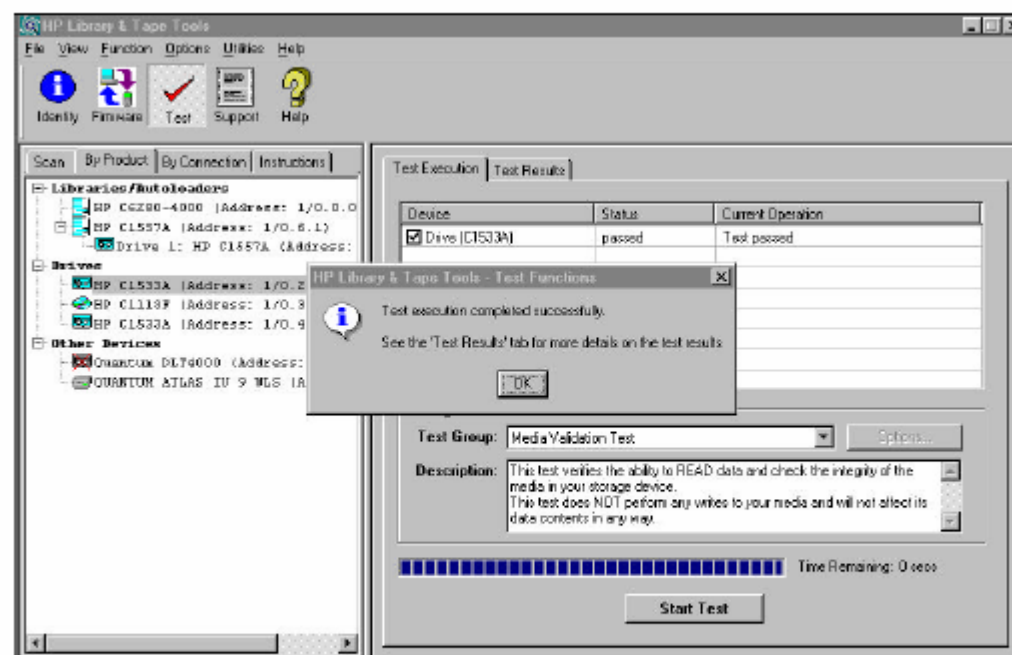
Read/writeテストに関しては、上書き可能なカートリッジをご用意ください。

Test ツール - drives



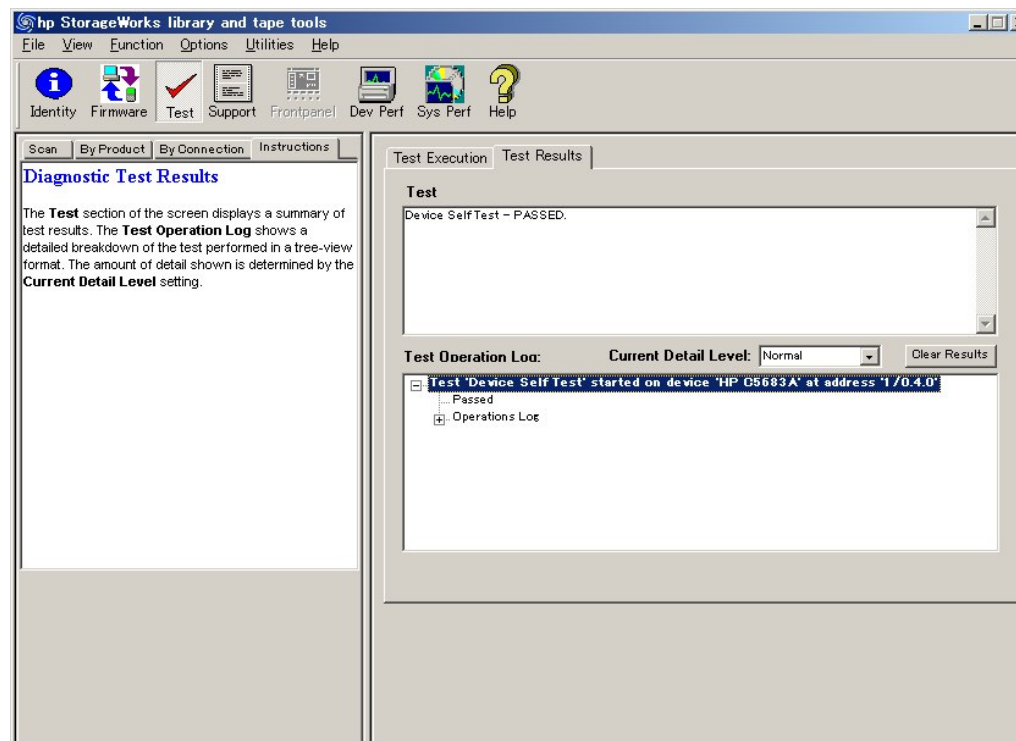
テストを実行するとテスト実行中のステータスが表示されます。

Test ツール - drives



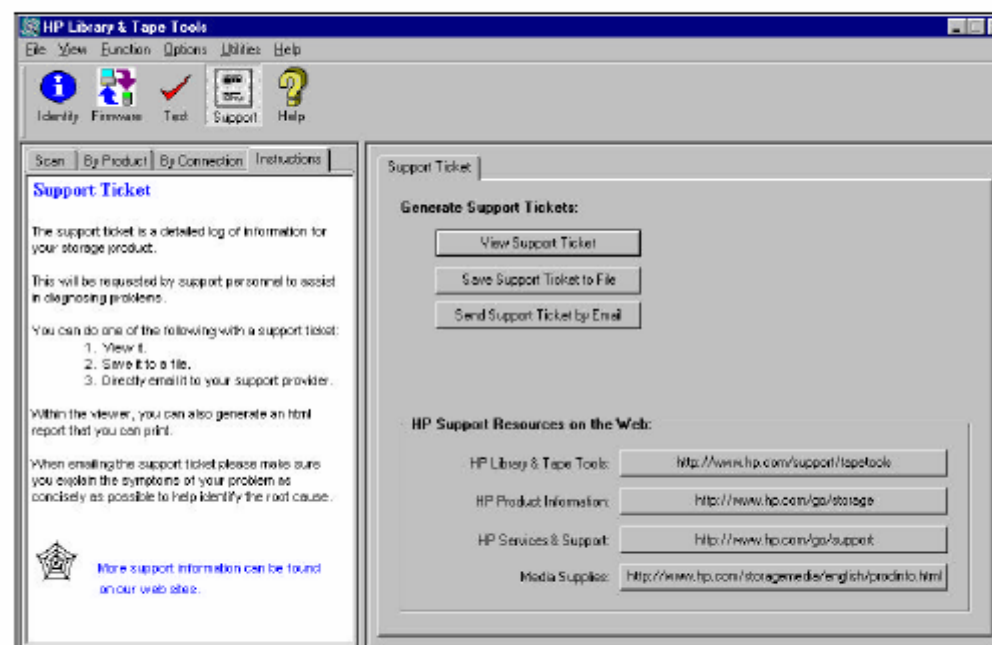
テストが完了するとテストが正常に完了(あるいは失敗)した旨のメッセージボックスが表示されます。

Test ツール - drives



テスト結果の詳細は Test Result タブを選択することにより、確認可能です。
またイベントログにも内容が記載されサポートチケットに保存されます。

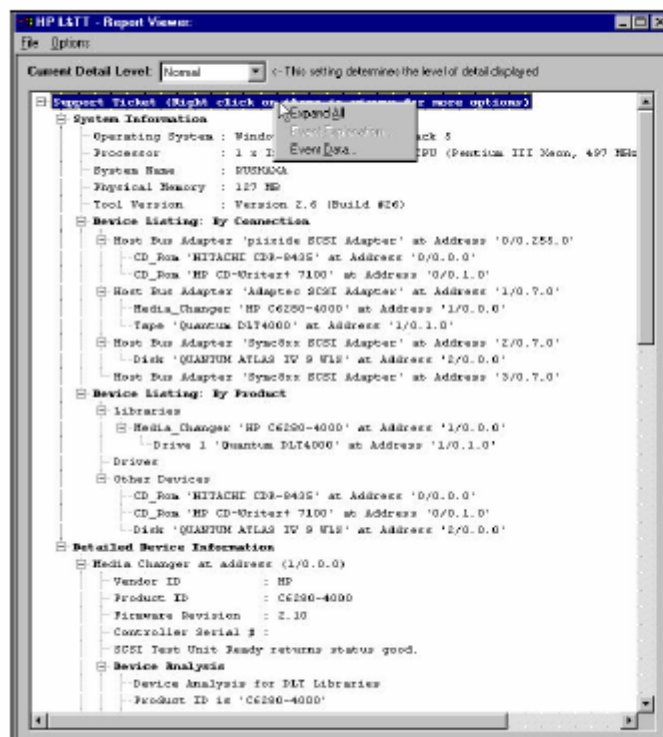
Support ツール



Support ツールは以下の操作が可能です。

- サポートチケット の内容の表示
- サポートチケット のファイルへの保存

Report viewer



サポートチケットを表示するためのReport Viewerで詳細な情報を確認することが出来ます。

初回起動時、サポートチケットの情報は概略のみ表示しています。'+ 'ボタンで内容を展開するとサポートチケットの内容をすべて表示可能です。

ファイルメニューから、HTML形式での表示を選択することが出来ます。HTML形式は、サポートチケットを印刷する際などに利用します。